

会 議 録

- 1 会議の名称 令和7年度第1回 川根本町商工観光委員会
- 2 会議日時 令和8年2月 18 日(水)午後1時 30 分から午後3時 30 分まで
- 3 開催場所 役場総合支所 2階 会議室
- 4 出席者氏名
 - (1) 委員 神田優一委員長、石山貴美夫委員、佐々木直也委員、堀美千恵委員、望月孝之委員、
 - (2) 執行機関 産業振興課 課長 鈴木浩之、商工業室長 中村克哉
観光交流課 課長 神谷毅、観光交流室長 久保圭弘
奥大井音戯の郷館長 高畑良成
 - (3) 傍聴 2名
- 5 議事
 - (1) 商工業振興事業について
 - (2) 観光振興関係事業について
 - (3) 音戯の郷事業について
 - (4) その他
- 6 会議資料の名称
 - (1) 商工業振興事業について
 - (2) 観光振興事業について
 - (3) 音戯の郷事業について
- 7 会議の内容
 - (1) 委員長挨拶
 - (2) 議事

① 商工業振興事業について

資料に基づき、事務局より説明

- (委 員) 創業セミナー参加者の狙いと全4回参加した方の人数は。
(事務局) 創業者の生の声を聞きたい方が多かった。全4回参加したのは2名。
(委 員) 女性のテレワーク人材育成事業の就労者2名は求人サイトへの登録か
実際仕事をされた方の人数のどちらか。
(事務局) テレワーカーとして登録された方の人数になる。
(委 員) 基礎ばかりでなく事業者が求めるスキルを習得した方がいいのでは。
(事務局) 年度ごとに講座の内容をスキルアップさせている。
(委 員) 音戯の郷のチャレンジショップの営業時間を見直してほしい。
事業者が稼ぐ力を磨くようなセミナーをやってほしい。

- (事務局) 稼ぐ力に関して商工会と相談して事業展開していきたい。
- (委員) 事業継承に関するアンケートで7割近くが継承しないと回答しているが、その対応は？
- (事務局) 生活に直結する事業者を中心に商工会と個別に対応している。
- (委員) 来年度のプレミアム商品券とLINEクーポンの予算規模は。
- (事務局) 今年度と同程度を予定している。
- (委員) 町内の温泉施設における町民利用が減っているなので、そういった事業で利用を誘導してはどうか。
- (事務局) LINEクーポンでは温泉の割引を行っているので、引続き対応したい。
- (委員) LINEクーポンの時期は12月で決定か。前回アンケートがあったが。
- (事務局) 利用者からは11月、12月の希望が多い。商品券を10月までやるので被らないよう12月とした。

② 観光振興関係事業について

資料に基づき、事務局より説明

- (委員) 寸又溪谷保全協力金の使途について、地元などと調整し、明確な全体計画をたててほしい。
- (事務局) 協力金の目的に基づいて、全体的な構想をつくっていく。協力金を基金に積立てし、事業選定委員会に図って使途を決めていきたい。
- (委員) モビリティ運行は協力金の使途としていいと思うので進めてほしい。また、Air ウェイトの実施と並行して温泉街で売れるものの充実を図ってほしい。ミズベリング事業について、将来的に実施事業者を選定していく計画だったが、その進捗はいかがか。
- (事務局) キャンプ場を実証してくれている事業者が来年度も前向きに考えてくれており、そういった繋がりを大事にしながら進めていきたい。
- (委員) 観光については役場主体の事業が多いと感じるので、観光協会と役割分担して頑張っていたきたい。
- (委員) ミズベリング事業の水の取組みは検討しているか。
- (事務局) カヌーやSUPに加え、浜名湖で提供されているヤマハのフロートを活用した企画を検討している。

③ 音戯の郷事業について

資料に基づき、事務局より説明

- (委員) 観光の拠点となる重要な場所となるので、町の観光戦略をしっかりとたて、慎重に取り組んでほしい。
- (委員) 大井川鐵道にも活用を聞いてみたか。
- (事務局) サウンディングを行ったが、まずは全線開通が目標、連携して事業は実施していきたいとのことだった。

(委員) 多くの財源を使うことになるので、選定事業者には町の意向をちゃんと伝えてほしい。

(事務局) その点はしっかりと対応したい。

④ その他

(委員) 町から商工会、観光協会へ職員が出向する考えはあるか。

(事務局) 担当課としてはない。

(委員) ハンドリングという意味でのつなぎ役としては有効な手段と感じる。

以上

午後 3 時 30 分閉会

上記に相違ないことを確認する。

委員長 神田 優一